

## 第4章 平成11年度山口大学構内の立会調査

### 第1節 吉田構内の立会調査

#### 1 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-15・16

P-14

調査期間 平成11年5月10～14日

調査面積 約6.6㎡

調査結果 (Fig.35～38, PL.36～38)

第2学生食堂の増築及び改修工事に関連して、周辺の屋外電力線路を整備し、ルートを変更することになった。上記工事に伴い、A～D地点で立会調査を行った。なお、C・D地点では事前に施工業者の協力の下、遺構面まで掘削を行い、調査を実施した。



Fig.35 調査区位置図

A地点の層序は、現地表下52cmまでが造成土で、以下52～152cmが赤褐色の岩盤であった。B地点の層序は、現地表下20cmまでが表土・耕土で、以下20～96cmが明橙色粘土、96～174cmが赤褐色の岩盤であった。

C地点は農学部実験畑に位置する。Fig. 36の方位は磁北を示す。層序は下記の通りである。第1層：耕土（層厚51～72cm）、第2層：水田耕土（明緑灰色（5G7/1）粘質土 層厚4～10cm）、第3層：水田床土（明黄褐色（2.5Y6/8）粘質土 層厚5～11cm）、第4層：遺物包含層（灰黄色（2.5Y6/2）シルト 層厚4～17cm）、第5層：第1遺構面形成層・遺物包含層（黒褐色（2.5Y3/1）粘質土 層厚3～16cm）、第6層：遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/3）粘質土 層厚6～19cm）、第7層：弥生時代以降の遺構面形成層（明緑灰色（7.5GY8/1）シルト 淡黄色（5Y8/4）淡黄色粘質土ブロックを含む 層厚約20cm）。

実験畑は統合移転前に存在した水田を埋めて利用されている。第4～6層は遺物包含層である。第4層は色調から中世の可能性が高い。土器量は少ない。第5層からは弥生土器片、土師器片、須恵器片、白磁片、土師質土器片、剥片が出土した。主体は弥生時代・古代の土器

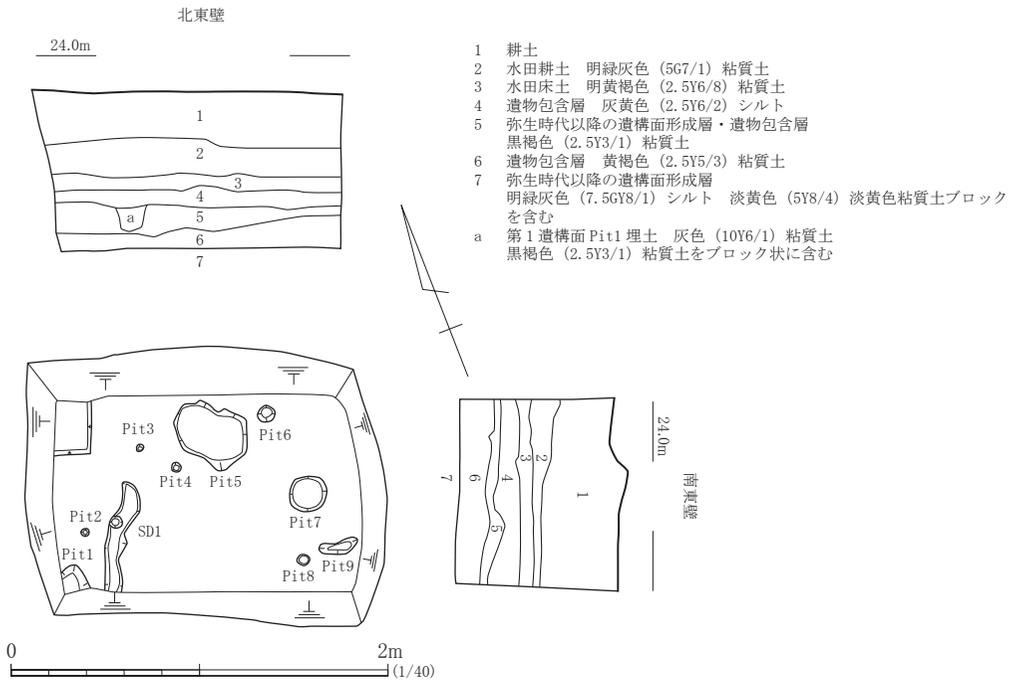


Fig.36 C地点平面図・土層断面図

で、白磁片、土師質土器片は機械掘削時の混入である可能性が高い。また北東壁では上面でPit1を検出した。第6層は遺物包含層である。第7層に近似するが、土器片、須恵器片、剥片が出土した。第7層上面の第2遺構面では溝1条、ピット9基を検出した。なお、同層の層厚は工事掘削時に確認した。

第1遺構面Pit1は断面幅16cm、深さ12cmである。出土遺物はない。第2遺構面SD1は長さ58cm以上、幅12cm、深さ3cmである。第2遺構面Pit1～9は杭の可能性のあるPit2～4・8と直径もしくは最大幅が10cm以上のPit1・5～7・9があるが、いずれも深さは6cm以内であった。埋土はPit7が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルトと黒褐色(2.5Y3/1)シルトで、他は黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。SD1から土器片、須恵器片(Fig. 38-1)、Pit4・5・9から土器片が出土した。

D地点の層序は下記の通りである。第1層:造成土(層厚12～39cm)、第2層:水田耕土(緑灰色(5G7/1)シルト 層厚12～21cm)、第3～10層:河川埋土(Fig. 37参照 層厚89～97cm)。第11～12層:弥生時代以降の遺構面形成層(青灰色(10BG5/1)砂礫・岩盤 層厚21cm以上)。水田耕土以下で河川埋土を検出し、古代の土器が出土した(Fig. 38-11～14)。

出土遺物(Fig. 38)について報告する。1～10はC地点出土土器。1はSD1出土の須恵器無高台坏底部。焼成不良で摩滅する。2～9は第5層出土土器。2は弥生土器壺の底部。摩滅

吉田構内の立会調査

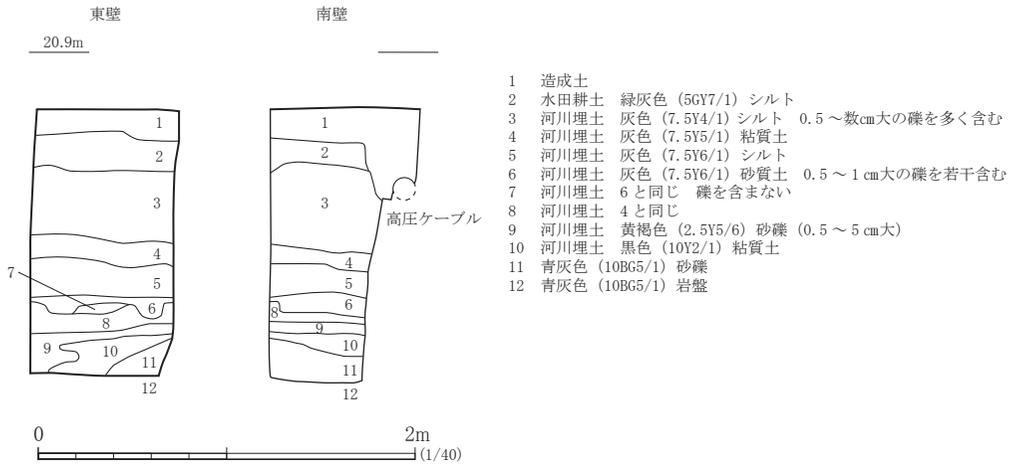


Fig.37 D地点土層断面図

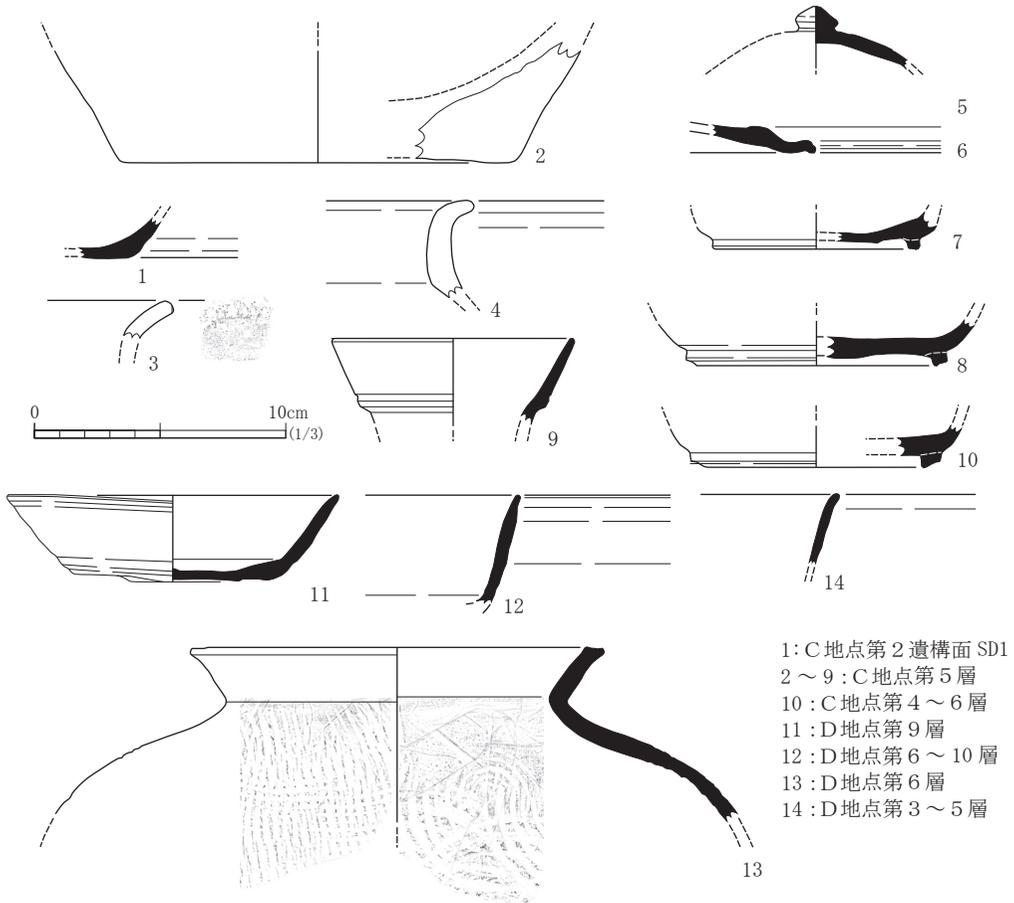


Fig.38 出土遺物実測図(土器)

が著しい。砂粒を多く含むことから弥生時代前期～中期初頭と考えられる。3は弥生土器甕口縁部。4は土師器甕口縁部。5は須恵器坏蓋天井部。宝珠状のつまみがつく。6は須恵器坏蓋口縁部。7・8は須恵器高台付坏の胴～底部。9は須恵器壺口縁部。10は第4～6層出土の須恵器高台付坏の胴～底部。11～14はD地点河川出土土器。11は須恵器無高台坏。全体的に歪みがみられる。12・14は須恵器坏口縁～胴部。13は須恵器甕口縁～胴部。胴部外面には平行タタキ（1条2.5mm 10mm/3条）を施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。

今回の調査ではC地点で遺物包含層と遺構面2面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D地点では河川埋土を検出し、古代の土師器、須恵器が出土した。C・D地点で出土した古代の須恵器は第2学生食堂敷地<sup>1)</sup>で出土した遺物と様相が近似している。C地点の状況は第2学生食堂敷地で確認された遺構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D地点の遺物は北側に位置する第2学生食堂・農学部実験畑から廃棄された可能性が高い。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅧ』、2021年）

Tab.8 出土遺物観察表(土器)

法量( )は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調		胎土	備考
								①外面	②内面		
1	C地点	SD1	須恵器 坏	底部				①②灰白色	0.5～1mmの砂粒を少量含む		
2	C地点	第5層	弥生土器 壺	底部		(16.6)		①にぶい黄褐色 ②浅黄色	0.5～4mmの砂粒を多く含む		
3	C地点	第5層	弥生土器 甕	口縁部				①にぶい黄褐色 ②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		
4	C地点	第5層	土師器 甕	口縁部				①にぶい黄褐色 ②浅黄色	0.5～2.5mmの砂粒を多く含む		
5	C地点	第5層	須恵器 坏蓋	天井部				①②灰色	0.5～5mmの砂粒を少量含む	つまみ部径1.75cm	
6	C地点	第5層	須恵器 坏蓋	口縁部				①青灰色 ②明青灰色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		
7	C地点	第5層	須恵器 高台付坏	胴～底部		(8.2)		①②明青灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む		
8	C地点	第5層	須恵器 高台付坏	胴～底部				①②灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む		
9	C地点	第5層	須恵器 壺	口縁部	(9.6)			①②灰色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		
10	C地点	第4～6層	須恵器 高台付坏	胴～底部		(8.6)		①②灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む		
11	D地点	第9層	須恵器 坏	口縁～底部	(13.2)	8.0	3.5	①青灰色 ②オリーブ灰色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		
12	D地点	第6～10層	須恵器 坏	口縁～胴部				①②灰黄色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		
13	D地点	第6層	須恵器 甕	口縁～胴部	(16.4)			①②灰色	0.5～2.5mmの砂粒を少量含む		
14	D地点	第3～5層	須恵器 坏	口縁～胴部				①灰色 ②にぶい橙色	0.5～2mmの砂粒を少量含む		

## 2 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 F・G-13、G・H-12

調査期間 平成11年6月1日、8月9日、12月14日

調査面積 約222㎡

### 調査結果

平成11年度分の工事として、長さ約111m分について、現地表下約5～6mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約1.4m以下で地山（弥生時代以降の遺構面形成層）及び河川堆積土を検出した。今回の調査でも、地山の直下、現地表下1.6mで、平成9年度の調査<sup>1)</sup>で地山の一部と考えられている黒褐色粘土が検出された。また、地山の直上で遺物包含層か遺構埋土の可能性のある黒褐色粘土を複数箇所を確認したが、遺物は出土しなかった。

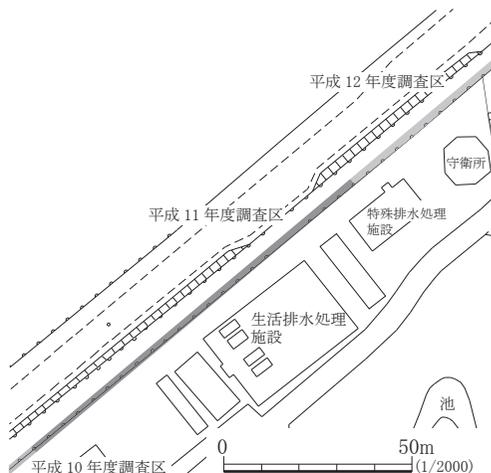


Fig.39 調査区位置図

なお、平成10～12年度の調査区の境界に誤りがあったので訂正する。上記に伴う平成10年度<sup>2)</sup>の調査面積は約60㎡、12年度<sup>3)</sup>の調査面積は約617㎡である。

### [注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XX』、2017年）

### 3 第 2 学生食堂北西擁壁新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 N・O-14

調査期間 平成 11 年 11 月 25 日

調査面積 約 43 m<sup>2</sup>

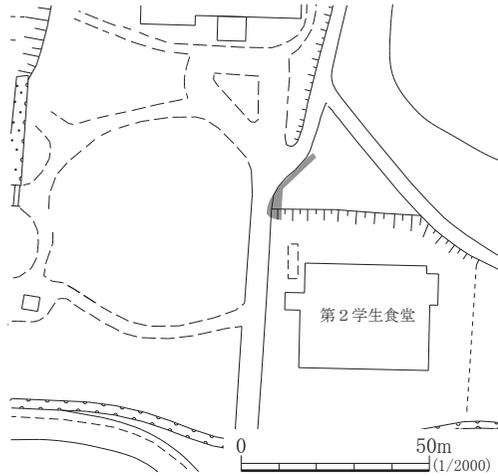


Fig.40 調査区位置図

**調査結果** 工事は第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴い、第 2 学生食堂の北西側に擁壁を新設するものである。削平が著しいことが予想されたが、確認のため調査を行った。調査の結果、表土直下で地山が検出され、埋蔵文化財に支障はなかった。

### 4 サッカー場南側防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 G・H-22

調査期間 平成 12 年 3 月 10 日

調査面積 約 3.2 m<sup>2</sup>

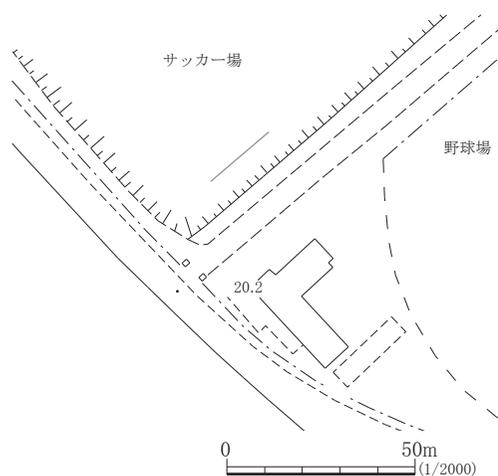


Fig.41 調査区位置図

**調査結果** 工事は防球ネット新設に伴い、平面形約 80cm × 80cm ・ 深さ約 50cm の基礎を 5 箇所掘削するものである。調査の結果、現地表下 25 ～ 35cm 以下で地山もしくは河川埋土と考えられる土層を検出したが、遺物は出土せず、埋蔵文化財に支障はなかった。

## 5 第1体育館・共通教育本館スロープ新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-15、K-15・16

調査期間 平成12年3月22・23・30日

調査面積 約201.1㎡

### 調査結果

工事は共通教育本館と第1体育館の北側にスロープの新設を行うものである。調査の結果、共通教育本館北側では現地表下約40～76cmで統合移転前の水田耕土を検出した。第1体育館北側は既設管による攪乱が著しかったが、現地表下約70cm前後の掘削底面付近で統合移転前の水田耕土と水田床土を検出した。

共通教育棟本館ではその後の改修工事に伴う調査で、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物を含む河川が検出されている。今回調査区にも延長部分<sup>1)</sup>が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に引き続き注意を払う必要がある。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成17年度—』、2007年)

山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成18年度—』、2010年)



Fig.42 調査区位置図

## 6 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I-12、K・L-18、L-15、M・N-17

調査期間 平成12年 3月21・27・30日

調査面積 約 4 m<sup>2</sup>

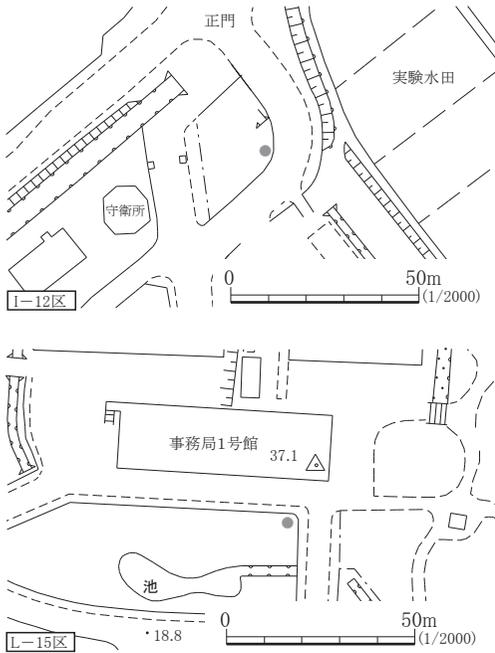


Fig.43 調査区位置図

### 調査結果

吉田構内で基幹環境整備の一環として、7箇所を外灯が新設されることになり、立会調査を行った。工事では、現地表下約70～140cmまで掘削が行われた。調査の結果、正門南東側、事務局1号館南側の地点は全て造成土の範囲内であった。その他の地点では統合移転前の水田耕土・水田床土や地山を検出したが、遺構はなかった。図書館南東側の地点からは、水田耕土から須恵器甕胴部片が1点出土した。



Fig.44 調査区位置図